
閉会挨拶

坂口 志文（再生医科学研究所長・教授）

本日は、「京都大学附置研究所・センターシンポジウム 京都からの提言」にこのように多数ご参加いただき、まことにありがとうございました。研究所・センターを代表しまして厚くお礼申し上げます。

本シンポジウムは、「グローバル社会に生きる－未来を見据える目－」、パネルディスカッションは、「地方から日本（世界）を考える」というテーマで開催致しました。私たちの生きております環境あるいは社会を考えますとき、“Think globally, act locally”ということがよく言われます。地球規模で物事を考える、しかし行動は我々の地方、地域、自分の身の回りから始めていく、ということであろうかと思えます。本日の講演を聴かせていただき、“Think globally, act locally”ということの大切さを改めて認識いたしました。

本日はハエ、バクテリアの話から海の生物、また人、社会、地球にわたりまして面白い講義をたくさん聞くことができました。改めて講師の方々にお礼を申し上げます。また、パネリストの方々、運営に当たられました事務の方々にお礼申し上げます。

本日のレクチャーでその一端を紹介しましたように、京都大学の附置研究所・センターは、自然科学から人文社会科学まで様々な学問分野を広くカバーし、多様かつ斬新な問題意識で日々研究を行っております。皆様に今後とも京大附置研究所・センターに関心を持っていただき、またご支援をいただきますよう宜しくお願い申し上げます。本日はどうもありがとうございました。（拍手）